



ANNUAL
REPORT
2025
みどりのトラストNo.109

公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

2025年度 (2025.4 - 2026.3) 事業報告

生物多様性の保全と次世代の人材育成を推進する当協会の活動と今後の期待

公益財団法人大阪みどりのトラスト協会
会長 前迫 ゆり

2026年1月に当協会会長(代表理事)に就任以来、早6ヶ月が過ぎました。当協会の活動についてはウェブサイトやFBでご案内の通り、さまざまな事業が活発に展開しています。これもひとえに会員ならびに地域のみなさま、企業・団体および行政との連携の賜と深く感謝申し上げます。

多彩な事業のなかでも、2025年4月からスタートした「能勢ネイチャーポジティブプロジェクト」は、公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)が米マイクロソフト社と復元生態学会が共同で実施する「Standards-based Restoration in Action」(基準に準拠した自然再生の取り組み)に採択された事業であり、NACS-Jと当協会との協働で取り組んでいます。

その主要な骨格は、1)当協会がこれまで保全活動に力を注いできた三草山ゼフィルス森及びその周辺、地黄湿地、妙見山の生物多様性を保全・再生する活動、2)自然とのふれあいの場と自然の担い手を増やす活動:自治体や企業、市民の皆様の参加を積極的に促すとともに、地元の学校など教育機関との連携を推進、3)生物多様性を活かした防災や減災など、自然に根ざした解決策(Nature-based Solutions:NbS)の検討と実践、さらには一次生産物の経済的付加価値をも創出する地域づくりをめざすものです。

本プロジェクト期間は3年ですが、終了後も地域の生物多様性が保全・再生されるとともに、NbSおよび経済的価値がより高まるような活動の継続をめざしたいと考えています。

さて2026年3月に岡田能勢町長を訪問し、能勢ネイチャーポジティブプロジェクト(能勢NPPJ)について意見交換する機会を得ました(写真)。また辻教育長ともお目にかかり、能勢ささゆり学園(能勢町立小中一貫校)の子どもたちが作ったしめ縄づくり(道の駅で販売し、即完売)をはじめ、能勢の自然を活かした教育活動について熱意あるお話を伺いました。5月には大阪府環境農林水産部みどり推進室長をはじめとする行政のみなさまとも率直な意見交換を行い、当協会のミッションと重要性をあらためて感じているところです。

能勢NPPJの実効性を高めるために多くの課題もありますが、この好機をとらえてみなさまとともにいい汗を流したいと考えています。みなさまの益々のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2026年7月



地黄湿地のサギソウ
(2023年7月・前迫撮影)



能勢岡田町長を表敬訪問
(2026年3月27日)

里山と伝統行事

京都大学大学院地球環境学堂 准教授 深町 加津枝

2

自然環境保全事業

7

和泉葛城山ブナ林保全事業	8
三草山ゼフィルスの森保全事業	10
地黄湿地保全事業	12
自然環境保全地域支援事業(社寺林)	14
地域連携推進事業・能勢ネイチャーポジティブプロジェクト	15
府内自然環境保全活動支援事業(大阪里山ネットワーク)	16
大阪さとり地域協議会の運営	17
CSR等支援事業	18

緑の募金事業

19

緑の募金事業 収入・支出について	20
緑の募金運動推進事業	21
緑化推進・森林の整備事業	
・緑化推進事業等交付金 ・堺第7-3区「共生の森づくり」の推進	22
・生駒山系花屏風活動支援事業 ・緑の少年団活動支援事業	23
・緑化推進運営協議会の運営	24

森林環境教育・森林ESD 普及啓発 その他

25

森林環境教育・森林ESDの推進事業	
・みどりづくりの輪活動支援事業	26
・みどりの一歩事業 ・教育大学学生向け講習の企画・運営等	27
・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール	28
・パネル展示の開催	29
普及啓発事業	30
会議開催・内部管理体制の整備状況	31
資料	32

ご支援・ご協力

35

里山と伝統行事

深町 加津枝

京都大学大学院地球環境学堂・准教授 大阪みどりのトラスト協会評議員

日本の里山には、人々の暮らしや農林業などの生業を通じて育まれてきた人と自然の関わりがあります。また、森林・集落・田畑・川や湖などの水辺がつながる独特の土地利用が見られます。こうした環境のなかで、多様な生きものとともに暮らす知恵や地域ごとの文化が育まれてきました。里山は、食料や木材、水などの恵みをもたらすだけでなく、美しい景観や文化、地域のつながりを支える場でもあります。そのため、近年では人々の暮らしを支える大切な「自然の恵み」として評価され、その保全と持続的な利用の重要性が広く認識されるようになっていきます。

こうした里山の価値は、日本だけでなく世界でも注目されています。例えば、経済界では、自然と共生する社会の実現に向けて、地域に受け継がれてきた土地の利用や管理の仕組みを尊重し、新たな協働による管理のあり方を探ることが提案されています。また、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)では、「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPS)」が設立されました。この

取り組みでは、里山や里海など、人と自然の関わりによって形成されてきた地域環境を持続的に維持・再生しながら、自然と共生する社会の実現を目指しています。

火を用いる祭礼「火祭り」は、日本各地の里山で受け継がれてきた代表的な伝統行事の一つです。その背景には自然への信仰があり、長い歴史のなかで仏教や神道などさまざまな信仰と結びつきながら、多様な火祭りとして受け継がれてきました。火祭りでは、薪や草木など地域の自然資源が継続的に利用されており、里山の自然や人々の暮らし、文化と深く関わっています。また、火祭りは伝統文化や民俗行事としての価値だけでなく、観光資源や地域コミュニティを支える活動としても重要な役割を果たしています。

私は環境省の生物多様性に関する研究プロジェクトの一環として、日本各地の火祭りがどこで行われているのか、またどのような文化的特徴をもっているのかを調査してきました。その結果、近畿地方では、里山の自然資源を利用し、地域固有の暮らしや生業と深く結びついた火祭りが156件確認

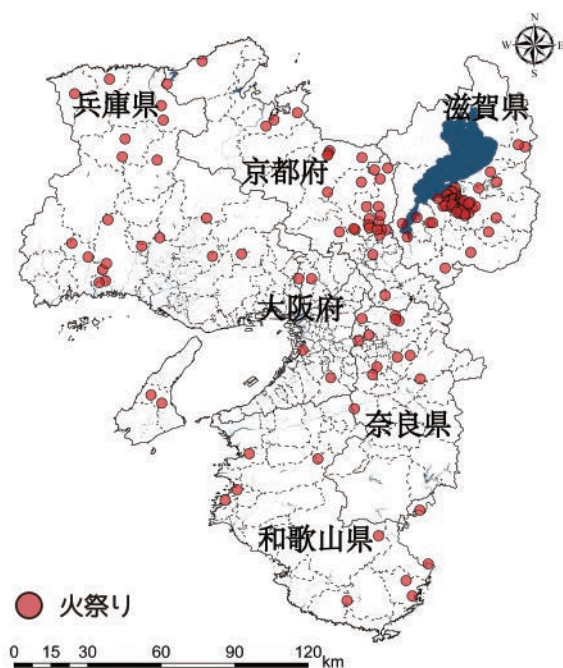


図1 近畿圏における火祭りの分布

されました(図1)。そのうち約7割(106件)は神社や寺院の境内で行われていました。一方で、河川だけを舞台とする火祭りや、山地だけで行われる火祭りもそれぞれ7%(11件)確認されました。また、神社・寺院と山地

を組み合わせたり、神社・寺院と湖畔や公園を組み合わせたりするなど、複数の場所を使って行われる火祭りも見られました。

火祭りが行われる時期を調べると、6月と9月に開催される事例は確認されませんでした。最も多かったのは4月の52事例で、次いで8月の42事例でした。6月と9月に火祭りが見られなかった背景には、梅雨の時期であることや、田植えや稲刈りなど農作業の繁忙期であることが関係していると考えられます。また、火祭りで使う薪や草木などの自然資源を集めたり加工・保存したりするのに適した時期であるかどうか、開催時期を左右する重要な要因です。実際に、火祭りの形式や利用される自然資源には地域ごとの特徴が見られました。例えば、滋賀県では、湖岸や西の湖などの内湖に広がるヨ



西の湖のヨシ原（近江八幡市）



ヨシや菜種ガラを使った「八幡まつり」（近江八幡市）の松明

シ原や、広大な農地で栽培される菜種に由来するヨシや菜種ガラを利用した大松明の火祭りが多く確認されました。一方、京都府や和歌山県では、身近な山地に広がるアカ

マツ林を背景に、アカマツやクロモジなどの森林資源を活用した火祭りが数多く行われています。このように、火祭りで利用される自然資源は地域の自然環境を反映しており、その調達方法や利用技術は、長年にわたって受け継がれてきた地域固有の知識や伝統と深く結びついています。

火祭りに関連する信仰は、地域の守り神である氏神への信仰や、火伏せの神として知られる愛宕信仰、お盆など、32種類の信仰や年中行事との関わりが確認されました。日本各地では、災厄を払い、無病息災や豊作、家内安全などを願う火祭りが数多く行われています。しかし、その背景にある信仰や祈りの形には地域ごとの特徴があります。例えば、滋賀県で多く見られた氏神信仰や春祭りに関わる火祭りには、豊かな実り



「鞍馬の火祭」（京都市）の松明に用いる柴の採取



「鞍馬の火祭」(京都市)の松明

を願う農耕文化の影響が色濃く表れています。一方、大阪府や京都府、兵庫県で多く確認されたお盆や愛宕信仰に関わる火祭りには、神道と仏教が長い歴史のなかで結びついてきた文化的な特徴を見ることができます。

近畿地方には多様な火祭りが残されていますが、ここでは大阪府内で受け継がれている代表的な火祭りを紹介します。大阪府内の火祭りとして、「がנגら火祭り」(池田市)、「まんどろ火祭り」(箕面市)、「石津太神社のやっさいほっさい」(堺市)、「長野神社のタイマツタテ」(河内長野市)があります。これらは、海沿いや山地に隣接する地域で行われます。

「がנגら火祭り」(図2)は江戸時代から続く愛宕信仰に関わる伝統行事となり、毎年8月24日に行われます。大松明の長さは約4m、重さ約100kgといわれ、青竹を中心に肥松(松やにが多く含まれている部分)の木片

を縄でくくりつけてつくられます。祭り当日は、まず五月山展望台の南斜面に小松明で「大一」の文字が灯され、その後小松明は山を下り「油かけ地蔵」横の四つ辻で大松明に火が移されます。大一文字と同じ頃、東方斜面に「大」の字が灯されます。

「まんどろ火祭り」(図3)は、京都の愛宕山から西国街道を通して萱野地域に伝播した愛宕信仰に関する伝統行事でしたが、戦後の社会変化や山火事の危険性などにより途絶えていました。2004年、「かやの中央」の新しいまちづくりと地域のにぎわい創出の一環として、住民・NPO・行政・企業の協働により「まんどろ火祭り」が復活しました。伝統文化の継承と里山との新しい関わりを目的として企画され、8月第一土曜日に松



図2 「がנגら火祭り」(池田市)のチラシ



図3 「まんどろ火祭り」(箕面市)のチラシ

明や提灯をもった子どもたちが千里川の河川敷を練り歩きます。

「石津太神社のやっさいほっさい」は、石津の浜に流れ着いたえびす神を漁師が108束の薪を燃やし暖めたという伝説に由来する、エビス信仰と修験道が融合した伝統行事です。毎年12月14日に行われ、えびす神に扮した男を3人の男がかつぎ、共に神木を積み上げ火をつけた「とんと」を渡る神事として知られています。薪の燃え残りを家に持ち帰ると、厄除けのまじないになるといわれています。

「長野神社のタイマツタテ」は、江戸時代(1701年)の記録にある伝統行事で、南北朝時代に御神体を神社に迎える際に松明を焚

いた故事に由来すると伝えられています。10月11日の祭礼に向けて氏子などが集まり大松明をつくります。まず縦約4m、横約4.2mの竹の簀を準備し、芯となる松の丸太の周囲に木の枝を置きながら丸く巻き、縄や藤蔓、竹で大松明を縛ります。真っ直ぐ立てられた後、上部に祈願串と藁が敷き詰められ大松明が完成します。

このように火祭りは、地域の自然資源を利用しながら、人々の祈りや暮らしを今に伝える里山の文化遺産といえます。火祭りをたどることで、地域ごとに育まれてきた多様な信仰文化や、人と自然との関わりを知ることができます。

【参考文献】

劉大可・深町加津枝. 近畿圏における火祭りの空間分布と文化的な特徴に関する研究. ランドスケープ論文集19(2):25-30, 2026



深町 加津枝

ふかまち かつえ

京都大学大学院
地球環境学堂
准教授

里山や名勝地などにおける人と自然の関係とその変化、地域固有の景観保全・活用、伝統知・地域知を活かした防災・減災のあり方などの研究。



自然環境保全事業

大阪府は面積約1,900平方キロメートル。全国で2番目に小さい都道府県ながら、人口は全国で3番目に多く、約880万人が暮らしています。府内の土地の多くは、住宅地や商工業用地として利用されていますが、山や農地、川から海にいたる多様な環境には、8,700種を超える多くの生物が棲み、それらはお互いにつながりあいながら生きています。

自然環境保全事業では、大阪府を代表する自然環境である「和泉葛城山ブナ林(岸和田市・貝塚市)」、「三草山ゼフィルスの森(能勢町)」、「地黄湿地(能勢町)」の保全活動を推進するとともに、府内の自然環境保全団体のネットワーク構築やCSR活動の支援などの事業を通して、大阪の自然環境・生物多様性の保全に取り組んでいます。





ブナ林は日本の冷温帯を代表する森林です。「和泉葛城山ブナ林」は、太平洋側の、標高800メートル前後の比較的高度の低い位置に分布しており、ブナ分布の南限圏に近い場所でこのようなブナ林が存続することに大きな価値があるとして、1923(大正12)年に国の天然記念物に指定されました。

和泉葛城山ブナ林では、大径木の枯死が進み、稚樹が極端に少ないうえに近年の種子生産状況も思わしくない等、長期的に見てブナ林としての存続が危ぶまれる状況にあります。

そのため、「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画(2021年度～2030年度)」(和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会)に基づき、コアゾーン(国指定天然記念物

区域)、バッファゾーン(緩衝樹林帯)での各種調査や森林保全活動を実施するとともに、ブナ林や自然環境保全についての普及啓発を行っています。

2025(令和7)年度は、過年度に実施された植生調査・毎木調査のモニタリング調査を実施したほか、開花・結実、気象、動物等に関する調査やパネル展・シンポジウムを行いました。

【2025(令和7)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・保護増殖検討委員会、ワーキンググループ会議の開催
- ・過年度に実施された植生調査、毎木調査のデータをもとに、モニタリング調査を計画、実施
- ・天然下種更新モニタリング調査、花芽・結実調査、花がら・種子調査、生育環境調査、哺乳類モニタリング調査
- ・植生調査、毎木調査の調査結果をテーマとした研究交流会の開催



植生調査



生育環境調査



自動撮影カメラに写ったシカ
※定着には至っていないと思われる

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数497人／実績635人)

- ・和泉葛城山ブナ愛樹クラブによるブナ若木の育成・森林保全等活動の支援
- ・地元の方による巡回
- ・看板、案内板、解説板等の更新・新設に向けた検討

(3) PR活動等

- ・「生物多様性に向けて 大切にしたい地域の自然 パネル展＆シンポジウム」を開催

① パネル展

和泉葛城山ブナ林の自然と調査活動、保全活動を紹介するパネル11枚を作成。また、貝塚市、岸和田市などで活動する9団体の紹介パネルを作成し、下記の日程・場所でパネル展を開催した。

- ・1/7～1/13 貝塚市役所 1階エントランス
- ・1/21～1/30 岸和田市役所 新玄関
- ・2/7～2/22 貝塚市立自然遊学館



パネル展

② シンポジウム(1/31)

岸和田市立公民館において、里山・里海などで活動する8団体の参加により次の内容で開催した。来場者数71名。

- ・話題提供「生物多様性の保全に向けて」和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会 会長 佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館）
- ・保全活動団体の紹介、意見交換会、ポスターセッション、参加者交流会
- ・当日の様子はYouTubeで公開中



話題提供



団体発表



シンポジウム

【2026(令和8)年度の主な事業】

「和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画(2021年度～2030年度)」に基づき、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会、同ワーキンググループ会議を開催し、専門家・関係者のご意見を伺いながら、以下の各種調査及び保全活動、普及啓発を効果的かつ円滑に進めます。

① コアゾーン及びバッファゾーンにおける調査研究等

- ・植生の変化状況や森林動態を調べるために、過年度に植生調査や毎木調査を行った地点におけるモニタリング調査を実施します。
- ・ブナの生存状況や生育状況を調べるために、天然ブナの全数調査を実施します。
- ・天然下種更新モニタリング調査、花芽・結実調査、種子調査、生育環境調査、哺乳類モニタリング調査を継続します。
- ・ブナ林をフィールドとした調査・研究成果の共有を目的とした研究交流会を開催します。

② バッファゾーン等における保全活動等

- ・ニホンジカの確認やイノシシの増加等の調査結果を受けて、監視体制を強化し、獣害対策について検討を進めます。
- ・和泉葛城山ブナ愛樹クラブ等によるブナ若木の育成・森林保全整備活動を支援します。

③ PR活動等

- ・前年に続き和泉葛城山ブナ林パネル展を大阪府立図書館、大阪市立自然史博物館、近畿中国森林管理局森林のギャラリー、きしわだ自然資料館などで開催します。
- ・ブナ林への関心を高めることを目的としたハイキングや自然観察などのイベントを開催します。
- ・「自然共生サイト」の登録に向けて準備を進めます。
- ・企業等によるCSR活動、地元学校や博物館等地元他団体との連携に努めます。



三草山ゼフィルスの森は、大阪府と兵庫県の府県境に位置する三草山（標高564m）の山麓部にあり、大阪府緑地環境保全地域に指定されています。ヒロオビミドリシジミを始めとするゼフィルス（ミドリシジミ類の蝶の愛称）をシンボルに、生物多様性豊かな場所の維持・向上を目指して里山保全活動を行っています。2024年度に地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」（民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域）に認定されています。

三草山の麓にある神山（こやま）の棚田では、遊休農地を生物多様性豊かな稲作水系へと復活させるべく、遊休農地再生事業「タガメの田づくり」の活動として、手作業で昔ながらのお米づくりをしながら棚田の維持管理を行っています。

ここでは、学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会などが参画する三草山ゼフィルスの森保全検討会議が策定した保全活動計画に基づいて、ゼフィルスの生息に必要な広葉樹の育苗や植栽、環境整備、シカ対策などの保全活動を進めています。

2025（令和7）年度は、西側エリアに金網フェンスによる防鹿柵（約550m）を設置しました。三草山周辺の案内も含めたリーフレットを作成し、普及啓発に努めました。また、マイクロソフト社からの支援を活用して、高木伐採を行い、ギャップ創出による生物多様性の増大を目指すとともに、動植物のモニタリング調査を強化しました。

【2025（令和7）年度の主な事業実績】

（1）計画検討・調査等

- ・ 三草山ゼフィルスの森保全検討会議の開催（4/15、12/17）
- ・ 森林の更新に伴うゼフィルスへの影響調査（大阪公立大学、日本鱗翅学会等）
- ・ 森林環境の変化による植生や昆虫類への影響調査（大阪公立大学等）
- ・ タガメの田づくり活動地・耕作放棄地での水田再生の研究（大阪公立大学等）

（2）保全活動等（保全活動参加目標人数1,150人／実績1,272人）

- ・ 能勢みどりすくクラブ・能勢の里山を繋ぐ会によるボランティア保全活動への支援
- ・ 西側約1/4のエリアに防鹿柵（金網フェンス）の設置
- ・ 関西大学第一中学校 能勢プロジェクトへの支援
- ・ 能勢町立能勢ささゆり学園との連携
- ・ 地元の方による巡回活動



保全活動：萌芽更新のための伐採



防鹿柵設置大会



関西大学第一中学校：堆肥用の落ち葉集め

(3)PR活動等

- ・リーフレット作成（里山保全活動、ゼフィルスや四季の生きもの、三草山とその周辺のハイキングマップなどを掲載）
- ・観察会等のイベント開催…ゼフィルス観察会（雨天中止）、タガメの田づくり田植え（5/18）、稲刈り（9/21）、冬支度（12/7）
- ・エネクスフリート株式会社による新入社員研修への協力（5/23）
- ・同社によるCSR活動「エネフリSmile」への協力（11/16、3/15）
- ・森林総合研究所・北京林業大学調査（ナラガシワ及びコナラの遺伝的多様性と葉形態の解析）協力（10/9）
- ・ゆめほたる（国崎クリーンセンター併設普及啓発施設）が実施する「ゆめほたる里山学校2025」をサポート（11/29）



リーフレット表紙



タガメの田づくり田植え



エネフリSmile:のこぎり体験



ゆめほたる里山学校:防鹿柵設置

【2026(令和8)年度の主な事業】

3ヵ年事業計画に位置付けた全エリアへの防鹿柵設置を継続します。また、持続可能な保全活動を行うため、学校教育との連携を図るとともに、企業CSR活動の誘致を行います。

① 計画検討・調査等

- ・三草山ゼフィルスの森保全検討会議を開催します。
- ・専門家の協力を得て、各種調査を実施します。

調査内容:森林の更新に伴うゼフィルスへの影響調査、タガメの田づくりの水生動物調査など

② 保全活動等

- ・シカによる食害からゼフィルス類をはじめ動物が依存する植物を守るため、全エリアへの防鹿柵設置を進めます。
- ・ボランティア保全活動(防鹿柵の設置・管理、坪刈り、ササ刈り、クヌギやナラガシワ等の果実の採取、苗木の育成、森の更新作業など)を支援します。
- ・地元の小中一貫校及び高校と連携をして、保全活動に努めます。
- ・巡回活動を実施します。(地元へ委託)

③ PR活動等

- ・観察会、タガメの田づくりイベント(田植え・稲刈り等)を開催します。
- ・企業等によるCSR活動や、メディア取材など、三草山ゼフィルスの森を活用して行う活動のサポートなどを行います。



地黄湿地は面積1haに満たない貧栄養の滲水（しんすい）湿地で、湿地特有の多様な動植物が生育・生息することから集水域の森林を含めて、17.7haが大府府緑地環境保全地域に指定されています。ここではサギソウや日本で一番小さなトンボであるハッチョウトンボ等をシンボルに、保全活動を行っています。

乾燥化・陸地化が進み湿地環境の衰退がみられていましたが、2014（平成26）年に学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会等が連携して「地黄湿地再生保全検討会議」を設立し、推進体制を整えました。また、地黄湿地保全活動グループ（地黄の森FANクラブ）が、水環境の整備等の再生保全活動を継続しており、生物多様性豊かな環境の維持・向上が図られています。

2025（令和7）年度は、シカによる食害を防ぐため、前年度の下池に続き、上池の周囲に防鹿柵設置を行いました。湿地の希少な動植物にスポットを当てた観察会イベントの実施等PRを継続して行うことにより、保全活動参加者の拡大・充実をはかりました。

過年度からの保全活動に加え、前年度に設置した下池周囲の防鹿柵の効果もあり、トキソウやサギソウといった湿地特有の植物の生育個体数が増え、分布場所が拡大しています。

地黄湿地保全事業準備資金（積立額600万円。計画期間2021年度からの5年間）とマイクロソフト社からの支援を活用し、湿地への水の供給量を増やすためのスギ・ヒノキ林の湿地・草原化など、後背森林の整備を行いました。

【2025（令和7）年度の主な事業実績】

（1）計画検討・調査等

- ・地黄湿地再生保全検討会議の開催（4/15、12/24）
- ・各種調査の実施（植生調査、希少植物の開花数調査、水生動物調査等）
- ・湿地のモニタリング、管理へのフィードバックの実施



サギソウ開花数調査

（2）保全活動等（保全活動参加目標人数370人／実績374人）

- ・地黄の森FANクラブによるボランティア保全活動への支援
（湿地の環境改善、湿地内・沿岸林縁部の下草刈り、植物調査、ウシガエルなどの外来種や国内外来種のメダカの駆除等）
- ・湿地上池全域に防鹿柵を設置
- ・湿地周辺の森林整備（日本森林ボランティア協会へ委託）
- ・木道の補修（大阪府森林組合へ委託）
- ・シカの食害実態把握のため、周辺森林での防鹿柵設置及び植生モニタリングの実施
- ・地元の方による巡回活動



保全活動：外来種対策(上池へのメダカの移動防止のための畔板設置)



保全活動：湿地の環境改善(冬季湿地部下草刈り)



防鹿柵設置大会

(3)PR活動等

- ・ 観察会・保全活動体験会の開催
初夏の植物・ハッチョウトンボ観察会(6/7)、サギソウ観察会(8/3)、秋の生きもの観察会(10/29)
- ・ 地元高校による環境学習と保全活動への協力



サギソウ観察会



秋の生きもの観察会



能勢分校の生徒による保全活動体験(冬季湿地部下草刈り)

【2026(令和8)年度の主な事業】

これまで同様に、湿地部の保全活動を継続するとともに、生物多様性の保全に向けた周辺森林整備などを行います。

① 計画検討・調査等

- ・ 地黄湿地再生保全検討会議を開催します。
- ・ 周辺森林整備部分の植生のモニタリング調査を実施します。
- ・ 湿地内に生息する水生動物のモニタリング調査を実施します。
- ・ サギソウなどの希少植物の生育状況モニタリング調査を実施します。

② 保全活動等

- ・ 地黄の森FANクラブによるボランティア保全活動を支援します。
- ・ ウシガエル及び国内外来種のメダカを駆除します。
- ・ 巡回活動を実施します。(地元へ委託)

③ PR活動等

- ・ 観察会、地元高校環境学習等を行います。
- ・ 自然共生サイト登録への申請を行います。

自然環境保全地域支援事業(社寺林)

社寺林と呼ばれる神社や寺院の周辺の森林は、古くから保護されており、極相林に近い状態で残されています。大阪府では、5つの社寺林が大阪府自然環境保全条例に基づく自然環境保全地域に指定されています。当協会は土地所有者(社寺)と保全契約を結び、それらの自然環境を維持・管理する保全活動に対して助成を続けています。

2025(令和7)年度は、各社寺林で定期的な維持・管理や巡視、普及啓発等が行われました。

【妙見山(みょうけんさん)(能勢町、10ha)】

西南日本のブナ林が標高1,000m以上に分布している中で、標高662m比較的低高度地帯に位置するブナ林であるため、アカガシ等の常緑広葉樹が混じった林相をもつ学術的にも貴重な樹林です。ブナの植樹や獣害防止柵の設置・補修、林内の草刈りなどが行われました。



妙見山：防鹿柵補修

【本山(ほんざん)寺(高槻市、14ha)】

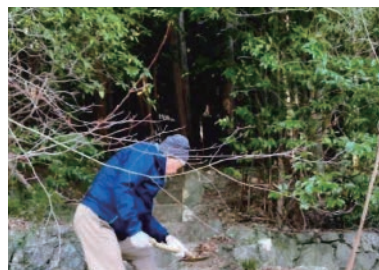
標高500m前後で比較的市街地に近いところに位置しているにもかかわらず、自然環境が良好な状態で保全されています。樹齢100年以上と思われる高木が多く、一部にはモミ、ツガ、カシ類等の優れた天然林があり、植物の種類でも淀川北部の山地では随一といってよい豊富な区域です。山林の保全や巡視、登山者等への普及啓発などが行われました。



本山寺：巡視

【若山神社(島本町、11ha)】

樹齢200年前後のコジイを主とする極相状態に近い林相を呈する、府内でも有数のシイ林です。また、シイ林の周囲をシラカシが取り巻くように成長しており、これはシイ林とカシ林が棲み分けた結果と考えられ、学術的にも貴重です。地元住民や来訪者への普及啓発、清掃・補修作業などが行われました。



若山神社：清掃

【美具久留御魂(みぐくるみたま)神社(富田林市、2ha)】

富田林丘陵の東辺部に位置し、コジイを主とする極相状態に近い広葉樹林です。林内は樹齢200年前後のコジイをはじめ、ナナメノキ、アラカシ、サカキ等がみられ、丘陵地の典型的なシイ林です。河内地方では最古の神社の一つとされています。侵入竹の除去やイノシシに荒らされた場所の整備、枝払いや倒木の片付けなどが行われました。



美具久留御魂神社：倒木片付け

【意賀美(おがみ)神社(岸和田市、1ha)】

神於山(こうのやま)の北西山麓に位置し、コジイを主とする広葉樹林です。ミミズバイ、ホルトノキ、タイミンタチバナ、ツルコウジといった府内でも珍しい植物があります。暖地性の樹種が多くみられ、同様の種組成を持つシイ林としては府内最北に位置し、学術的にも貴重です。地元の宮山保存会による清掃・枝払い作業や強風による倒木の撤去、地元ケーブルテレビを通じた啓発活動などが行われました。



意賀美神社：枝払い作業

生物多様性の保全に向けた地域・地元との連携のモデルを構築するため、三草山ゼフィルスの森・地黄湿地がある能勢町において地域連携のあり方を模索し、府内の他地域での展開を視野に入れ、得られた知見や成果の情報発信を行いました。多くの事業は、能勢ネイチャーポジティブプロジェクトとして実施しました。

能勢ネイチャーポジティブプロジェクト(能勢NPPJ)

公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)が米マイクロソフト社からの支援を受け、2025年度より3年間、能勢町内でネイチャーポジティブの実現を推進する取り組みが始まりました。当協会はパートナーとして同プロジェクトの全体運営に参画します。

このプロジェクトでは、町内の生物多様性保全上重要なフィールドにおいて保全活動を推進することに加え、自治体や企業・市民の積極的な参加を促し、地元の学校など教育機関との連携を進め、さまざまな主体によるモニタリング調査やプロジェクトの推進ができる体制づくりを目指しています。また、生物多様性を活かした防災や減災、水源涵養、獣害対策、持続的な地域づくりなどNbs(Nature-based Solutions)にもつながる取り組みを進めます。

2025(令和7)年度は、第一段階として「三草山ゼフィルスの森」、「地黄湿地」、「妙見山ブナ林」において保全活動を推進しました。また、各フィールドの保全検討会議等の助言を受けながら、活動前後のモニタリング調査を行いました。2026(令和8)年度以降もモニタリング調査を実施し、取り組みの成果を確認していきます。

【2025(令和7)年度の主な事業実績】

- ・ 三草山ゼフィルスの森:危険木・枯死木等の大径木の除伐、チョウ類ルートセンサス調査の強化、防鹿柵設置効果を検証するための柵内外の植生調査の実施、西側エリアへの防鹿柵設置
- ・ 地黄湿地:針葉樹林の除伐(対象範囲拡大)及び防鹿柵の設置
- ・ 妙見山ブナ林:針葉樹林の除伐及び防鹿柵の設置
- ・ 指標種を使った新たな評価手法勉強会(10/5)
- ・ 事業推進会議(専門家による能勢NPPJの取組みに対する科学的知見に基づく検討や助言を行うための会議体)準備会合(1/28)
- ・ 地黄湿地防鹿柵設置大会(2/5)
- ・ 当協会のHP内に能勢の魅力を発信する「能勢ネイチャーポジティブネットワークサイト」立ち上げ(2/20)
- ・ プロジェクトチーム(能勢NPPJに地域のニーズを反映させ、事業がより効果的に進むようにけん引する実働チーム)準備会合(3/5)
- ・ 妙見山ブナ林防鹿柵設置体験会(3/17)



指標種勉強会



妙見山ブナ林防鹿柵設置体験会

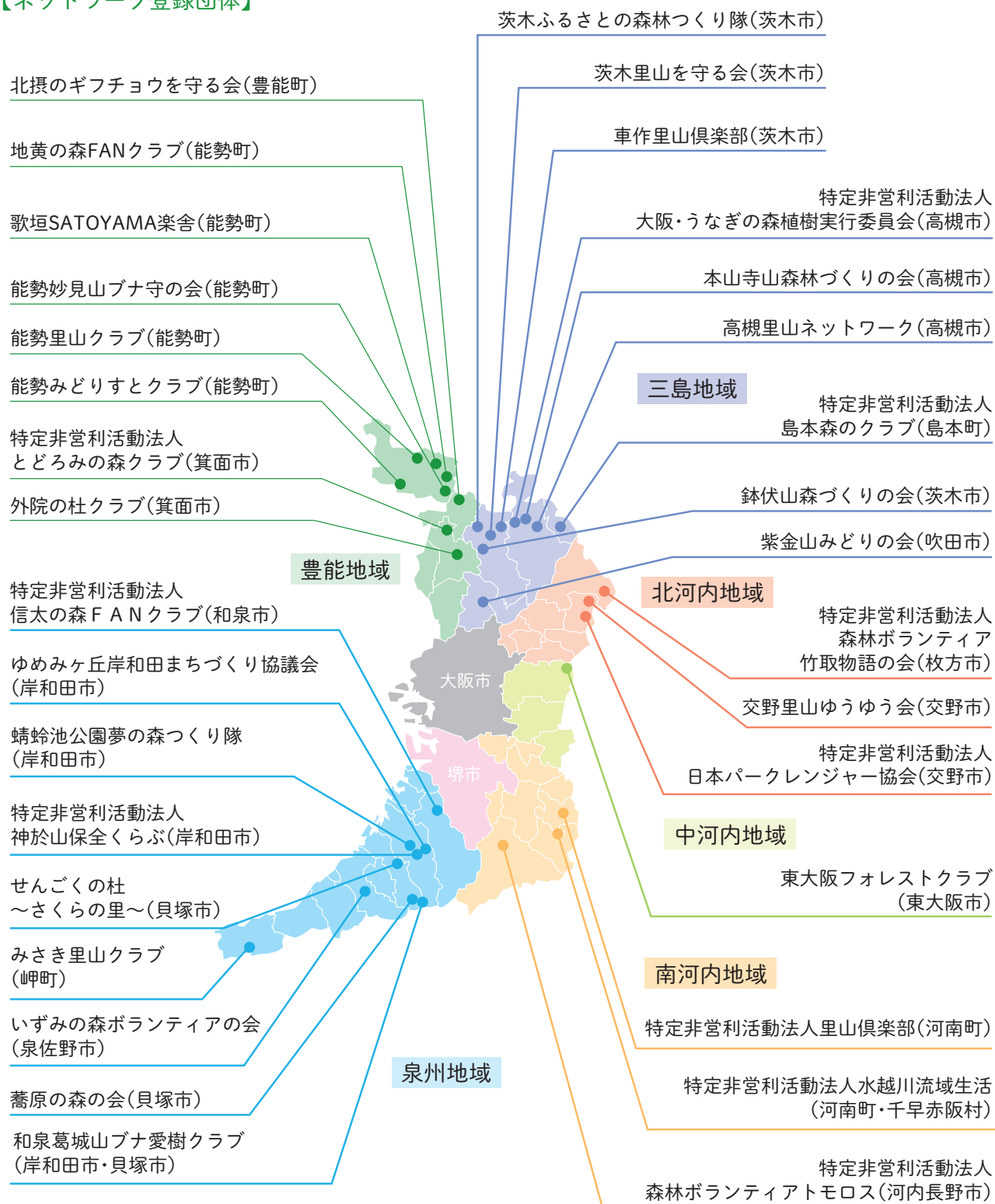


能勢ネイチャーポジティブネットワークサイト

府内自然環境保全活動支援事業(大阪里山ネットワーク)

大阪府内で里山保全の活動をしている団体を支援するため、大阪里山ネットワークを運営しています。登録団体への支援として、①団体紹介や最新情報を発信する情報サイトの運営、②イベント開催や被災復旧への少額助成、を行っています。2026(令和8)年3月末時点で、35団体が登録しています。

【ネットワーク登録団体】



【2025(令和7)年度の主な事業実績】

・少額助成事業の実施:8団体11件の申請に対し、合計407,173円の助成



チェーンソー講習(日本森林ボランティア協会)



植樹祭(うなぎの森植樹実行委員会)



体験講座(東大阪フォレストクラブ)

大阪さともり地域協議会の運営

大阪さともり地域協議会は、2013(平成25)年度からスタートした林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の実施にあたって、大阪府域を対象として設置された地域協議会です。当協会はその事務局として、活動組織への交付金の交付、活動に対する支援や指導等を行っています。

2025(令和7)年度は、「活動地の安全を考える」をテーマとしたセミナー開催やアドバイザー派遣などに加え、チェーンソー安全講習会を開催するなど、持続可能な活動推進に資する取り組みを行っています。

2025(令和7)年度より、同事業は「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金事業」として再スタートしました。引き続き事務局として適正で円滑な事業の推進に努めます。

【2025(令和7)年度の主な事業実績】

- ・ 交付金申請採択団体
 - 活動組織26組織
 - 交付金 15,572千円
- ・ 大阪さともり地域協議会
 - 総会(4/22 web開催)
 - 審査会(4/22 web開催)
- ・ 活動組織へのアドバイザー派遣(3活動組織、4回)
- ・ 安全講習会
 - チェーンソー安全講習会(5/18、25 茨木市銭原地区)
 - 救急法応急手当安全講習会(1/12 大阪産業創造館)
- ・ セミナー・交流会
 - 里山保全セミナー(12/4 大阪産業創造館)



アドバイザーによる現場指導



チェーンソー安全講習会



里山保全セミナー

社員参加型の森づくりなど、自然環境保全活動に関心のある企業に対して、大阪府や里山保全団体等と連携し、活動計画の提案や活動時の安全管理・指導などの支援を行っています。

2026年度も引き続き企業による自然環境保全などの環境への取り組みを支援していきます。

(1) 新規活動の立上げ支援

企業の森づくりやCSR活動に関心のある複数の企業より、当協会の取組みや提供可能なサポートへの問合せがあり、それらの相談に対してサポートを行いました。

(2) 既存活動支援

企業名	活動地	タイプ	2025年度の活動内容
株式会社NTTドコモ関西支社	ドコモ泉南堀河の森 (泉南市)	自社フィールド	里山保全活動・オオムラサキの保護活動など
エネクスフリート株式会社	三草山ゼフィルスの森 (能勢町)	協会主催活動地	里山保全活動、新入社員研修による案内看板の更新、社会貢献活動の実施
株式会社立花エレテック	枚方市東部清掃工場 (枚方市)	大阪府アドプトフォレスト制度の活用	新入社員研修による竹林整備など



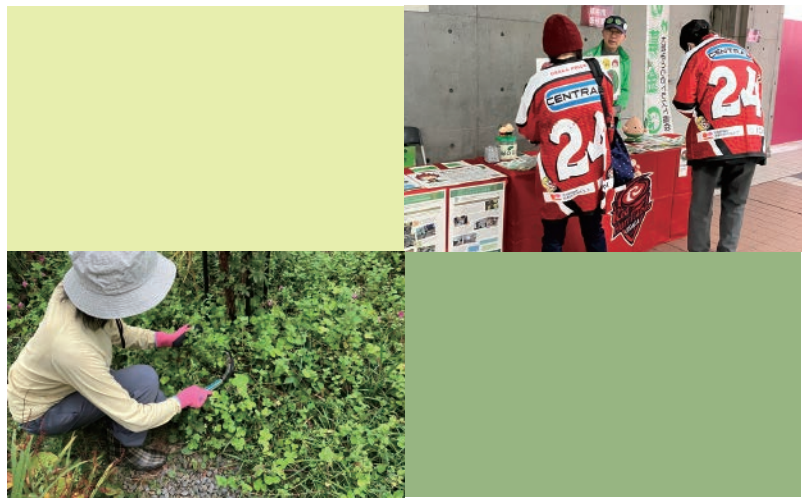
NTTドコモ関西支社：道普請



エネクスフリート：案内看板の更新
(新入社員研修)



立花エレテック：竹林整備(新入社員研修)



緑の募金事業

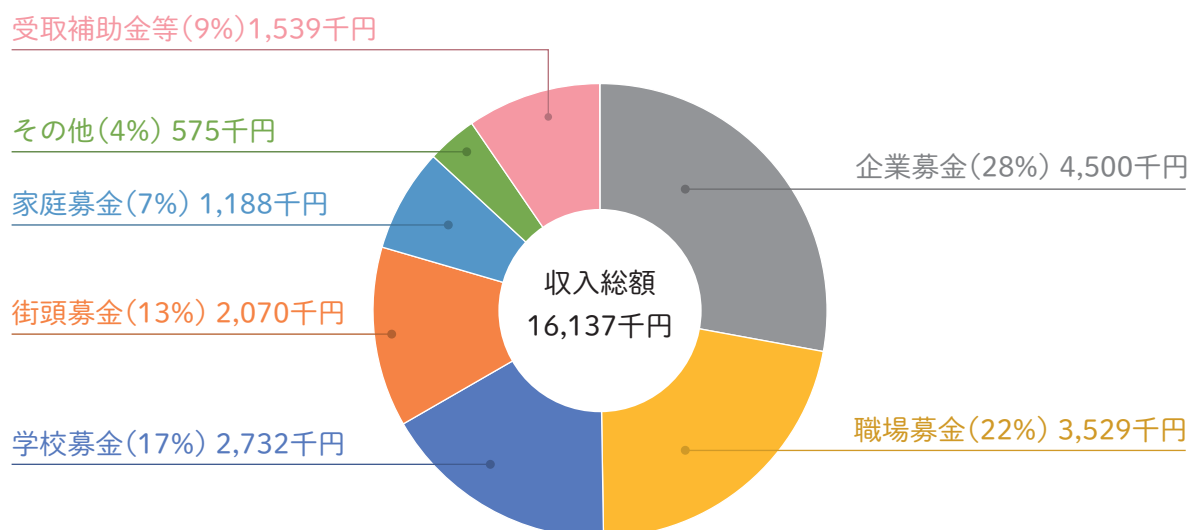
「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき寄付金の募集を行うもので、大阪府では、当協会がその業務を行う団体として指定されています。

府民・企業・団体などの皆さまにご協力いただいた「緑の募金」を活用し、市街地や学校の緑化、また教育現場への助成事業として、「みどりづくりの輪活動支援事業」や「みどりの一歩事業」などを実施しています。



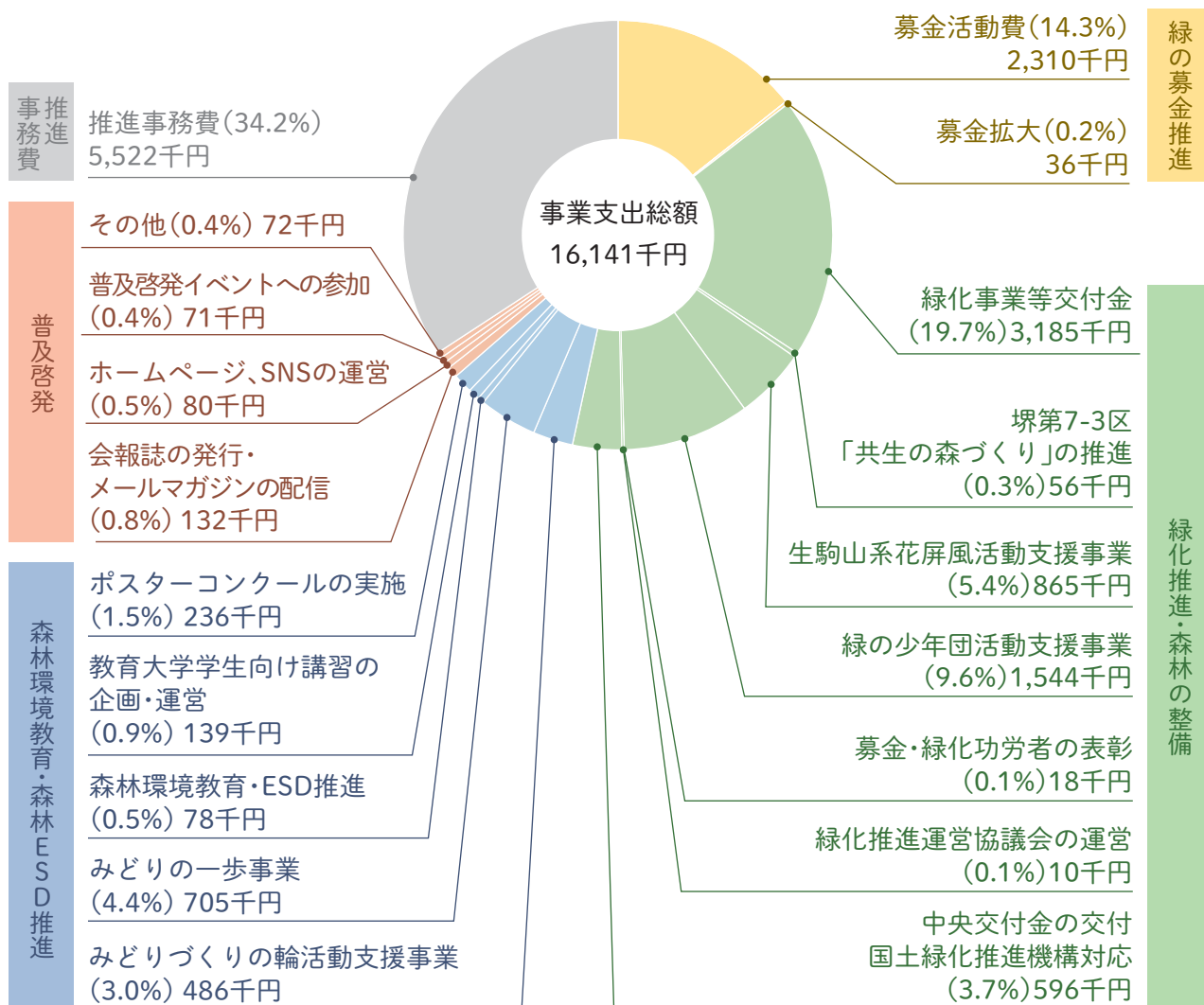
緑の募金事業 収入について

2025(令和7)年度の収入総額は16,137千円で、前年度比102%となりました。



緑の募金事業 支出について

2025(令和7)年度の事業支出総額は16,141千円となりました。



緑の募金運動推進事業

(1) 普及啓発資材の整備

- ・緑の募金運動および普及啓発の円滑な推進を図るため、募金資材(緑の羽根、緑化バッジ、PRチラシ、ポスター、募金箱)を整備しました。
- ・緑化バッジは、大阪府立港南造形高等学校の協力を得てデザインされ、選考会を経て、最優秀賞の作品が採用されました。



バッジデザイン選考会

2026(令和8)年用バッジ
(タンポポ)
大阪府立港南造形高等学校
田中 千夏さんのデザイン



(2) 募金活動の推進

- ・日常的な募金活動に加え、募金キャンペーン期間を設け、関係団体に協力を呼びかけるとともに、大阪府庁舎などに募金箱を設置するなどして、集中的に募金活動を推進しました。

〈キャンペーン期間〉

春季 2025(令和7)年3月1日～5月31日

秋季 2025(令和7)年9月1日～10月31日



大阪府庁舎募金箱

- ・大阪に本拠地を置くプロラグビーチーム「レッドハリケーンズ大阪」の公式戦(ヤンマースタジアム長居)に緑の募金ブースを出展し、コラボ缶バッジの配布と募金活動を行いました。(1/17)
- ・「和泉市みどりのフェスタ」(5/11 和泉市黒鳥山公園)、「全国木材産業振興大会」(9/4 大阪市中央公会堂)、「水都おおさか森林(もり)の市」(10/26 毛馬桜之宮公園・近畿中国森林管理局)などのイベントに出展し、募金の協力を呼びかけました。



緑の募金・レッドハリケーンズ大阪
コラボ缶バッジ



レッドハリケーンズ大阪選手による
募金協力の呼びかけ



全国木材産業振興大会大阪大会

(3) 募金協力者の拡大

- ・再生紙製造販売企業より再生紙を活用した資材提供の申し出があり、緑の羽根に代わる資材として、新たに「しおり」を作成しました。
- ・燃料供給や車の販売・整備の事業者、及び廃食用油回収リサイクル販売の事業者より、購入ポイントや売り上げに伴う寄付が継続しています。

緑化推進・森林の整備事業

(1) 緑化推進事業等交付金

募金活動に協力した団体、学校、企業による地域や学校の緑化を推進するため、募金額の40%を上限に、該当団体の申請に基づき緑化推進事業等交付金を交付しています。

2025(令和7)年度は、284団体に対し、3,110,532円を交付しました。

〈交付金を活用した緑化活動〉



貝塚市立第二中学校



岸和田市立浜小学校



八尾市立曙川小学校



千早赤阪村立千早小吹台小学校



河南町立近つ飛鳥小学校



大阪信愛学院中学校高等学校



高槻市緑花推進連絡会(トーマスひむろ認定こども園)



田尻町



寝屋川市

(2) 堺第7-3区「共生の森づくり」の推進

堺第7-3区は、府内の産業廃棄物を受け入れ埋立てしてきた大阪府堺臨海部の産業廃棄物埋立処分場です。全体約280ヘクタールのうち、市民・NPO等の参加のもと、森として整備することが位置づけられた100ヘクタールの区域を「共生の森」として、植樹及び育樹イベントの開催等により森づくりを推進しています。

2025(令和7)年度は、育樹活動を中心に行われた「第2回共生の森育樹祭」(3/7)に対し助成を行いました。



第2回共生の森育樹祭

(3)生駒山系花屏風活動支援事業

大阪商工信用金庫エコ定期「まねきeco」や「商工さくら基金」からの「緑の募金」を活用し、大阪の市街地から見渡せる生駒山系を屏風に見立て、府民の協働により、ヤマザクラなどの花木や紅葉の美しい樹木の植樹を進めています。

2025(令和7)年度は、生き物の保全・育成、自然観察会や野外体験学習、森林保全のボランティアの養成等、生駒山系花屏風構想の普及啓発に資する活動を行う10団体に助成を行いました。

また、一般参加による花屏風ハイキング(八尾市11/8)が開催され、緑の募金の呼びかけも行いました。

団体名	活動場所	植栽樹種・本数、活動内容	参加人数(人)
特定非営利活動法人ナック	柏原市	下草刈り・危険木伐採、体験活動(秘密基地づくり・バウムクーヘンづくり)	91
NPO法人日本パークレンジャー協会	交野市	竹林間伐・下草刈り・ボランティア養成・体験活動	84
交野自然の杜クラブ	交野市	コナラ8本、野草の調査と保全活動、キンラン現地増殖の取り組み	124
森区山地保全会	交野市	ソメイヨシノ30本、危険木伐採、下草刈り	75
枚方里山の会・穂谷	枚方市	竹林間伐、ササ・下草刈り、アカガエル・ウバユリの保全活動	192
日下山を市民の森にする会	東大阪市	ヒガンザクラ3本、ヤエザクラ3本、シダレザクラ2本、シモクレン1本、ミモザ1本、維持管理	46
神立水呑地蔵講	八尾市	カワツザクラ2本、ヤエザクラ1本	10
交野里山ゆうゆう会	交野市	生き物の保全(バタフライガーデン)、保全地の獣害対策	18
寺区さとり保全会	交野市	ソメイヨシノ5本、枯竹除去、竹林間伐	24
枚岡ネイチャークラブ	東大阪市	ヤマザクラ10本	15
合計		植栽本数:66本	679



交野自然の杜クラブ



日下山を市民の森にする会



花屏風ハイキングでの募金活動

(4)学校・園への助成事業

※詳細は、P.26～27に掲載。

(5)緑の少年団活動支援事業

子どもたちが緑や自然に触れ、森林や緑化に関する意識が高められるよう、連盟所属の4団に対して活動助成を行いました。交流集会を万博記念公園(吹田市)で開催(11/23)し、73名が参加しました。今回は岡山県の「緑の少年隊」からの参加もあり、地域を超えて交流しました。



交流集会

(6)緑化推進運営協議会の運営

緑の募金の適切な運用を図るため、有識者からなる緑化推進運営協議会を開催しています。
2025(令和7)年度の開催状況は以下の通りです。

5月27日(火)	第66回 緑化推進運営協議会	議案 ・2024(令和6)年度事業報告について ・2024(令和6)年度決算報告について
2月24日(火)	第67回 緑化推進運営協議会	報告案件 ・2025(令和7)年度事業概要について ・2025(令和7)年度「緑の募金」収支決算見込みについて 議案 ・2026(令和8)年度「緑の募金」事業計画案について ・2026(令和8)年度「緑の募金」収支予算案について

【2026(令和8)年度の主な事業】

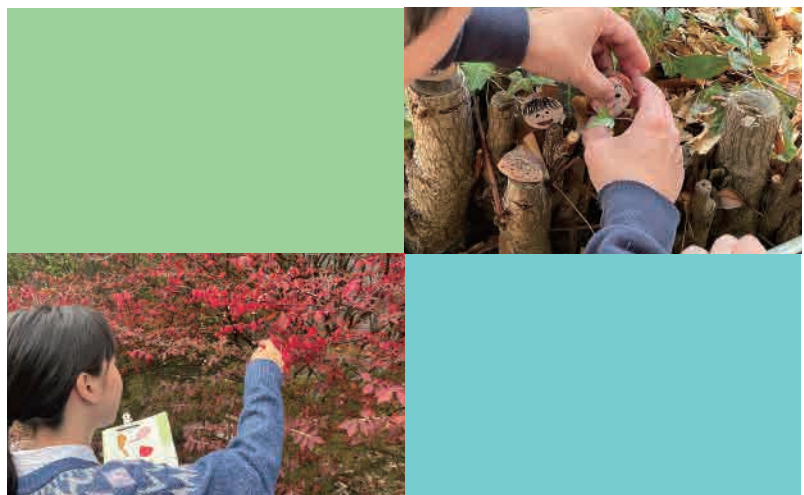
- ・緑の募金運動および普及啓発の円滑な推進を図るため、募金資材を整備し、活用します。
- ・SDG s 達成への貢献を目指し、緑の未来を担う子どもたちへの助成など緑化推進・森林の整備事業を進めます。
- ・府内各地で行われる各市町村や各種団体等の緑化関連イベントなどで緑の募金活動・PRを行います。



森林環境教育・森林 E S D 普及啓発 その他

森林ESDを「持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的に、森林・里山や校庭・公園などの身近な自然環境を活用して行う学習や活動」と定義付けし、より多くの小学校・保育の現場で質の高い森林ESDが実践される環境の整備に向けて、関心を持つ諸団体と連携し、様々な取り組みを進めています。

普及啓発については、メールマガジン、ホームページ、SNS、動画配信等、多様な媒体による重層的な情報発信を行い、より多くの皆さまに当協会が行う事業について知っていただく機会を設けていきます。



森林環境教育・森林ESDの推進事業

森林環境教育・森林ESDの推進事業は、学校等への助成事業に加え、教育関係者と自然環境保全関係者のネットワークづくりなど、環境整備に主眼をおいた取組みを進めました。

(1)みどりづくりの輪活動支援事業

子どもたちによる生物多様性につながる自然環境保全活動、森林整備活動、校庭・園庭などの緑化やビオトープの整備などへ助成しています。

2025(令和7)年度は、3校・団へ助成しました。

団体名	活動の概要
学校法人白頭学院 建国小学校	全校生が自然と身近に関わることができるようにと、校内のバタフライガーデン・エコトーン・ビオトープの整備に取り組みました。専門家の指導を得ながら、中高生・保護者の緑化ボランティアによる花壇の制作、小学生による植樹やエコトーン作りなど、全校生がさまざまな作業に参加しました。 
東大阪市立 高井田西小学校	正門周辺を自然あふれる憩いの場とするために、ツツジ・サツキの移植やサクラの植樹など緑化整備に取り組みました。サクラの植樹に合わせて、サクラの名前を募集する、手作りのしおりを配付するなど、多くの児童が緑化事業に関心を持つよう工夫しました。 
ガールスカウト 大阪府第137団	豊能町高代寺下の活動地において、森林整備と里山整備に取り組みました。植樹には、池田・豊中・箕面の団からも参加があり、クヌギやカエデなどさまざまな樹を植えました。また、外部指導員の方から森林整備活動の大切さや大変さなどを学ぶ機会にもなりました。 

助成事業に関連して、学校が活動の検討・計画段階に専門家による助言を得られるよう、専門家の紹介や派遣費用助成等の支援を行いました。(専門家派遣2件)

(2)みどりの一歩事業

公益社団法人国土緑化推進機構の緑の募金助成金を活用し、幼稚園、こども園、保育園などで身近な緑づくり(植樹)と環境教育(緑の教室)のイベントを開催しました。

2025(令和7)年度は4園で実施しました。

実施園名	所在地	植樹・本数	参加者数
矢田北保育園	大阪市東住吉区	ビワ	園児・職員39名
しおあなの森保育園	堺市堺区	シマトネリコ、ゲッケイジュ	園児・保護者91名
鶴見学園	大阪市鶴見区	カラタネオガタマ	園児・職員74名
くすみ共同保育園	羽曳野市	ヤマザクラ、ヤマモモ、レモン、クワなど	園児・学童生・職員48名

〈植樹〉



〈緑の教室〉



(3)教育大学学生向け講習の企画・運営等

大阪森林インストラクター会と連携し、大阪教育大学の1回生の学生約160名を対象に、「どこでもできる森林ESD体験講座」を実施しました。



(4) 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

国土緑化運動を推進するためのポスター原画コンクールを実施しています。

令和8年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールは、大阪府内の小学校・中学校・高等学校より17校／93点の応募(参加総数 318点。各学校10作品まで応募可)がありました。9月に審査会を開催し、優秀作品14点を選び、公益社団法人国土緑化推進機構中央審査会に応募しました。その結果1名が入選しました。

【大阪みどりのトラスト協会賞】

※学年は作品応募当時です。

小学校の部



「しぜん」
箕面市立箕面小学校
2年 齋藤 萌々花さん



「みどりと手をつなごう」
堺市立新金岡小学校
2年 鷹屋 穂香さん



「ツリーハウスを楽しもう！」
箕面市立箕面小学校
3年 盛田 芽生さん

小学校の部



「大きくそでて」
堺市立西陶器小学校
4年 平居 航成さん



「平和の木」
堺市立西陶器小学校
4年 柳生 真優さん



「木」
大阪市立川辺小学校
5年 堀 嬉依来さん

中学校の部



「育む」
利晶学園大阪立命館中学校
1年 阪上 遥南さん



「地球を緑に」
利晶学園大阪立命館中学校
1年 寛光 乃夢さん

中学校の部



「地球のため、自分のため。」
門真市立第五中学校
2年 多々見 咲来さん



「みんなのみどり」
大阪府立工芸高等学校
1年 有川 瞳さん



「地球と私」
大阪府立工芸高等学校
1年 塩満 あゆみさん



「すごろくすすめよう。」
大阪府立工芸高等学校
1年 平松 心美さん



「命 つなぐしずく」
大阪府立工芸高等学校
2年 西村 日和さん

【中央審査会入選】

中学校の部

国土緑化推進機構理事長賞



「夏の木漏れ日」
大阪市立花乃井中学校
1年 木田 直太さん

(5) パネル展示の開催

大阪府立中央図書館(4/24～5/6)や、近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」(7/8～7/31)にて、「子どもたちにもっとみどりを～緑の募金を活用したみどりづくりや木の利用を進めるための活動支援紹介～」と題し、パネル展示を行いました。

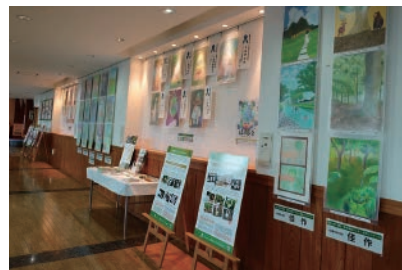
同時に「令和7年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」中央審査会入選の1点をはじめ、大阪みどりのトラスト協会賞13点及び佳作21点を展示しました。



大阪府立中央図書館：パネル展示



大阪府立中央図書館：ポスターコンクール作品展示



近畿中国森林管理局 森林(もり)のギャラリー展示

【2026(令和8)年度の主な事業】

- ・ 子どもたちが、森林や木材利用、生物多様性への理解を深めることを目的に、身近な緑化や森林整備などの活動、森林ESDや緑の大切さを知る学習などを支援する助成事業を実施します。
- ・ 引き続き、大阪教育大学、大阪森林インストラクター会等と連携し、森林ESDを体験する教育大学学生向け講習を実施します。
- ・ 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの募集・作品の展示を継続します。
- ・ 森林環境教育・森林ESDなどの普及啓発を目的としたパネル展を実施します。

ホームページ・SNSを活用し、メールマガジン配信と連動したタイムリーな情報発信を行いました。イベントへの出展では、認知度向上につながるようパンフレットの配布やパネル展示を行いました。

2026(令和8)年度も引き続き、情報発信・普及啓発に努めます。

(1) 会報誌の発行・メールマガジンの発行

会報誌「ANNUAL REPORT 2024(みどりのトラストNo.108)」を発行しました(7月)。メールマガジンを、約600の団体及び個人に定期配信し(月1回)、最新情報の発信を行いました。

(2) ホームページの運営・SNSの活用

ホームページは、自然環境保全事業では、イベント告知とスタッフブログを中心に、活動地の最新情報をお知らせしました。緑の募金事業では、募金がどのように活用されているかを活用事例ページで紹介しました。Facebook・Instagramを活用し、それぞれの特徴に応じた内容を配信しました。

(3) 普及啓発イベントへの参加

当協会が行うシンポジウム・観察会などのイベントや地域のイベントなどへ参加し、緑の募金への協力の呼び掛けやパネル展示を行いました。他団体と連携し、丸太切・まき割り、クラフト体験などを行いました。

- ・和泉市みどりのフェスタ(5/11)
- ・おおさかのてっぺんフェスティバル(10/4)
- ・水都おおさか森林の市(10/26)
- ・枚方環境フェスタ「氷室ふれあい里の駅」(10/26) など



Instagram投稿画像



ホームページ: 緑の募金の活用事例



和泉市みどりのフェスタ: 和泉葛城山ブナ愛樹クラブと協力



水都おおさか森林の市: 大阪森林インストラクター会と協力



おおさかのてっぺんフェスティバル: 日本自然保護協会と協力

会議開催状況

2025(令和7)年度の理事会、評議員会の開催状況は以下のとおりです。

(1) 理事会

6月7日(土)	決議の省略	第1号議案 「評議員候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案 「評議員会の決議の省略による方法により、 評議員1名の選任を求める件」
6月9日(月) WEB会議	第33回理事会	第1号議案 「2024(令和6)年度事業報告について」 第2号議案 「2024(令和6)年度決算について」 第3号議案 「第15回定時評議員会招集について」
8月20日(水)	決議の省略	第1号議案 「評議員候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案 「評議員会の決議の省略による方法により、 評議員1名の選任を求める件」
10月29日(水) WEB会議	第34回理事会	第1号議案 「2025(令和7)年度事業計画の補正 (MS能勢プロジェクト)について」 第2号議案 「2025(令和7)年度収支予算の補正について」
1月5日(月)	決議の省略	第1号議案 「2025(令和7)年度事業計画の補正 (MS能勢プロジェクト)について」 第2号議案 「2025(令和7)年度収支予算の補正について」
1月5日(月)	決議の省略	第1号議案 「代表理事(会長)の死亡に伴い、新代表理事 (会長)を選定する件」
3月3日(火) WEB会議	第35回理事会	第1号議案 「嘱託職員への2025年度臨時賞与の支給について」 第2号議案 「中期経営計画(令和8～10年度)について」 第3号議案 「2026(令和8)年度事業計画について」 第4号議案 「2026(令和8)年度収支予算について 資金調達及び設備投資の見込みについて」 第5号議案 「常勤役員の報酬額の決定について」

(2) 評議員会

6月17日(火)	決議の省略	第1号議案 「評議員1名の選任の件」
6月24日(火) WEB会議	第15回評議員会	報告事項 「2024(令和6)年度事業報告について」 第1号議案 「2024(令和6)年度決算について」
9月1日(月)	決議の省略	第1号議案 「評議員1名の選任の件」

内部管理体制の整備状況

2025(令和7)年度において下記の経営計画を策定しました。

3月3日(火)	中期経営計画(令和8(2026)～10(2028)年度)の策定
---------	---------------------------------

正味財産増減計算書内訳表

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	3,581,275	3,581,275
基本財産受取利息	0	0	0	0	3,581,275	3,581,275
特定資産運用益	48,400	0	0	48,400	0	48,400
特定資産受取利息	48,400	0	0	48,400	0	48,400
受取会費	959,000	0	0	959,000	0	959,000
会員受取会費	959,000	0	0	959,000	0	959,000
受取補助金等	26,765,303	1,538,628	0	28,303,931	0	28,303,931
受取国庫補助金	6,435,250	0	0	6,435,250	0	6,435,250
受取地方公共団体補助金	11,119,000	0	0	11,119,000	0	11,119,000
受取民間補助金	3,200,000	1,538,628	0	4,738,628	0	4,738,628
受取受託金	4,620,000	0	0	4,620,000	0	4,620,000
指定正味財産からの振替額	1,391,053	0	0	1,391,053		1,391,053
受取負担金	910,468	0	0	910,468	0	910,468
受取負担金	910,468	0	0	910,468	0	910,468
受取寄付金	1,351,254	14,593,988	0	15,945,242	0	15,945,242
受取寄付金	1,351,254	0	0	1,351,254	0	1,351,254
募金収益	0	14,593,988	0	14,593,988	0	14,593,988
雑収益	114,493	4,374	0	118,867	17,692	136,559
受取利息	0	2,156	0	2,156	16,953	19,109
雑収益	114,493	2,218	0	116,711	739	117,450
経常収益計	30,148,918	16,136,990	0	46,285,908	3,598,967	49,884,875
(2) 経常費用						
事業費	31,291,146	16,141,129	0	47,432,275		47,432,275
役員報酬	936,000	234,000	0	1,170,000		1,170,000
給料手当	11,552,389	3,701,875	0	15,254,264		15,254,264
福利厚生費	1,555,881	561,000	0	2,116,881		2,116,881
会議費	1,995	8,000	0	9,995		9,995
旅費交通費	1,384,401	184,960	0	1,569,361		1,569,361
通信運搬費	437,469	596,951	0	1,034,420		1,034,420
減価償却費	354,845	0	0	354,845		354,845
消耗品費	1,952,791	1,947,879	0	3,900,670		3,900,670
印刷製本費	228,330	268,068	0	496,398		496,398
燃料費	124,846	26,133	0	150,979		150,979
賃借料	3,327,811	989,754	0	4,317,565		4,317,565
保険料	578,638	6,058	0	584,696		584,696
使用料	501,878	217,338	0	719,216		719,216
委託費	4,518,261	425,661	0	4,943,922		4,943,922
募金事務費	0	139,620	0	139,620		139,620
広告宣伝費	25,488	0	0	25,488		25,488
諸謝金	1,577,400	151,000	0	1,728,400		1,728,400
支払負担金	1,286,197	180,076	0	1,466,273		1,466,273
支払助成金	623,173	2,831,434	0	3,454,607		3,454,607
支払手数料	262,977	165,415	0	428,392		428,392
緑化事業等交付金	0	3,505,107	0	3,505,107		3,505,107
光熱水費	9,876	0	0	9,876		9,876
租税公課	50,500	800	0	51,300		51,300

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
管理費					3,584,159	3,584,159
役員報酬					1,270,000	1,270,000
給料手当					841,371	841,371
福利厚生費					317,806	317,806
旅費交通費					16,440	16,440
通信運搬費					62,134	62,134
消耗品費					96,406	96,406
印刷製本費					49,280	49,280
賃借料					324,417	324,417
保険料					44,000	44,000
使用料					229,659	229,659
委託費					132,000	132,000
支払負担金					72,016	72,016
支払手数料					127,530	127,530
租税公課					1,100	1,100
経常費用計	31,291,146	16,141,129	0	47,432,275	3,584,159	51,016,434
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 1,142,228	▲ 4,139	0	▲ 1,146,367	14,808	▲ 1,131,559
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 1,142,228	▲ 4,139	0	▲ 1,146,367	14,808	▲ 1,131,559
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
基本財産からの振替額	0	0	0	0	0	0
受取寄附金	0	0	0	0	0	0
募金収益	0	0	0	0	0	0
トラストファンドからの振替額	0	0	0	0	0	0
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
前期損益修正		0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
固定資産除却損	0	0	0	0	0	0
備品除却損			0	0	0	0
前期損益修正		0	0	0	0	0
投資有価証券売却損		0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	▲ 1,142,228	▲ 4,139	0	▲ 1,146,367	14,808	▲ 1,131,559
他会計振替額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 1,142,228	▲ 4,139	0	▲ 1,146,367	14,808	▲ 1,131,559
一般正味財産期首残高	12,450,711	▲ 4,238,675	0	8,212,036	98,986	8,311,022
一般正味財産期末残高	11,308,483	▲ 4,242,814	0	7,065,669	113,794	7,179,463
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	1,708,947	0	0	1,708,947	0	1,708,947
受取民間補助金	3,100,000	0	0	3,100,000	0	3,100,000
一般正味財産への振替額	▲ 1,391,053	0	0	▲ 1,391,053	0	▲ 1,391,053
受取寄付金	621,500	0	0	621,500	0	621,500
受取寄付金(基本財産))	0	0	0	0	0	0
受取寄付金(ブナ)	177,000	0	0	177,000	0	177,000
受取寄付金(ゼフィルス)	444,500	0	0	444,500	0	444,500
基本財産評価損益	0	0	0	0	▲ 28,750,740	▲ 28,750,740
特定資産評価損益	▲ 1,282,600	0	0	▲ 1,282,600	0	▲ 1,282,600
特定資産評価損(ブナ)	▲ 808,038	0	0	▲ 808,038	0	▲ 808,038
特定資産評価損(ゼフィルス)	▲ 474,562	0	0	▲ 474,562	0	▲ 474,562
	0	0	0	0		0
当期指定正味財産増減額	1,047,847	0	0	1,047,847	▲ 28,750,740	▲ 27,702,893
指定正味財産期首残高	25,477,807	0	0	25,477,807	218,210,230	243,688,037
指定正味財産期末残高	26,525,654	0	0	26,525,654	189,459,490	215,985,144
III 正味財産期末残高	37,834,137	▲ 4,242,814	0	33,591,323	189,573,284	223,164,607

貸 借 対 照 表

(2026年3月31日現在)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部	円	円	
1 流動資産			
現金預金	10,254,381	6,488,186	3,766,195
未収金	2,333,628	4,833,731	△ 2,500,103
立替金	14,893	374,587	△ 359,694
前払金	288,594	322,314	△ 33,720
流動資産合計	12,891,496	12,018,818	872,678
2 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	3,310,418	3,310,418	0
普通預金	19,592	19,592	0
投資有価証券	186,129,480	214,880,220	△ 28,750,740
基本財産合計	189,459,490	218,210,230	△ 28,750,740
(2)特定資産			
トラストファンド			
普通預金	2,001,540	1,380,040	621,500
投資有価証券	19,408,400	20,691,000	△ 1,282,600
トラストファンド合計	21,409,940	22,071,040	△ 661,100
公益充実資金			
地黄湿地保全事業準備資金			
普通預金	0	755,472	△ 755,472
大阪里山ネットワーク運営準備資金			
普通預金	2,032,988	2,440,161	△ 407,173
公益充実資金合計	2,032,988	3,195,633	△ 1,162,645
構築物（三草山防鹿柵及びオートクローザードア）	5,115,714	3,406,767	1,708,947
特定資産合計	28,558,642	28,673,440	△ 114,798
(3)その他固定資産			
備品	123,973	46,085	77,888
車両	1	1	0
長期前払費用	8,830	8,830	0
立木	1,023,000	1,023,000	0
その他固定資産合計	1,155,804	1,077,916	77,888
固定資産合計	219,173,936	247,961,586	△ 28,787,650
資産合計	232,065,432	259,980,404	△ 27,914,972
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	8,433,738	7,481,444	952,294
前受金	424,000	456,000	△ 32,000
預り金	43,087	43,901	△ 814
流動負債合計	8,900,825	7,981,345	919,480
負債合計	8,900,825	7,981,345	919,480
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
大阪府出捐金	100,000,000	100,000,000	0
寄附金	126,341,618	126,341,618	0
有価証券評価差額	△ 36,882,128	△ 8,131,388	△ 28,750,740
基本財産合計	189,459,490	218,210,230	△ 28,750,740
ブナの森トラストファンド	13,487,906	14,118,944	△ 631,038
ゼフィルス・の森トラストファンド	7,922,034	7,952,096	△ 30,062
トラストファンド合計	21,409,940	22,071,040	△ 661,100
民間補助金	5,115,714	3,406,767	1,708,947
指定正味財産合計	215,985,144	243,688,037	△ 27,702,893
(うち基本財産への充当額)	(189,459,490)	(218,210,230)	△ 28,750,740
(うちトラストファンドへの充当額)	(21,409,940)	(22,071,040)	△ 661,100
(うち構築物への充当額)	(5,115,714)	(3,406,767)	1,708,947
(うち公益充実資金への充当額)	(0)	(0)	0
2 一般正味財産	7,179,463	8,311,022	△ 1,131,559
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うちトラストファンドへの充当額)	(0)	(0)	0
(うち構築物への充当額)	(0)	(0)	0
(うち公益充実資金への充当額)	(2,032,988)	(3,195,633)	△ 1,162,645
正味財産合計	223,164,607	251,999,059	△ 28,834,452
負債及び正味財産合計	232,065,432	259,980,404	△ 27,914,972

ANNUAL REPORT 2025

(みどりのトラスト 109号)

2025年度(2025.4-2026.3)事業報告

■ 表紙の絵

「しぜん」

令和8年用

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

小学生の部 大阪みどりのトラスト協会賞

箕面市立箕面小学校 2年(応募当時)

齋藤 萌々花 さん

■ 発行:2026(令和8)年7月





〈役員一覧〉

2026年6月末現在

会 長	前 迫 ゆり	奈良女子大学共生科学研究センター協力研究員 元大阪産業大学大学院教授
理 事	中 村 夏美	大阪府生活協同組合連合会 専務理事
理 事	平 井 規央	大阪公立大学大学院農学研究科 緑地環境科学専攻 環境動物昆虫学研究グループ 教授
理 事	藤 原 宣夫	大阪公立大学名誉教授
常務理事	長 井 聖治	公益財団法人大阪みどりのトラスト協会 常務理事
監 事	鎌 田 邦彦	弁護士法人第一法律事務所 弁護士・弁理士
監 事	松 本 勝幸	松本公認会計士事務所 公認会計士・税理士

〈評議員一覧〉

2026年6月末現在

評 議 員	栗 本 修滋	大阪府森林組合 代表理事組合長
評 議 員	小 林 由華子	大阪商工信用金庫 広報CSR室長
評 議 員	駒 谷 善弘	大阪市建設局 公園緑化部長
評 議 員	塩 野 雅典	大阪府環境農林水産部 みどり推進室 室長
評 議 員	深 町 加津枝	京都大学大学院 地球環境学堂 景観生態保全論分野 准教授

法人名称 公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

所 在 地 〒559-0034
大阪市住之江区南港北2丁目1番10号
ATCビルITM棟11F西
TEL:06-6614-6688 / FAX:06-6614-6689

事業内容 1.貴重な自然環境の保全及び生物多様性、里山の保全
2.自然環境の保全、緑化に関する普及啓発及び調査研究
3.緑の募金運動の推進
4.森林環境教育・森林ESDの推進
5.緑化事業、森林整備等への助成
6.ボランティアの育成、活動支援
7.CSR活動のサポート

設 立 1989(平成元)年11月1日
公益財団法人移行年月日:2012(平成24)年4月1日

みどりの未来をわたしたちの手で



<https://www.ogtrust.jp>